

5.23 国家権力の学内乱入に抗議する！

我々にもめざめる時がきた。

二十三日、夜半、大学立法粉碎斗争に乘じ国家権力は、あからかに、その本質をうづかだした。そしてその黒い手は、サークル活動とのものまでにおおいからずつてきた。我々は断固、それに抗議し、自からきをふら、権力に對峙させていかなければならぬ。しかし我々は権力のサークル侵入に目をうばわれるのではなく、やうに血の目を、その本質をふまえる中からあきらかにしていかなければならぬ。国家権力が暴力として、争を規定するように、権力の暴力に我々が目をふさがれているならば、我々は何も語れないだろう。そこからには何も生まれてこないだろう。60年安保以来、大蔵法、国大協、そして70年夏前にしての中教審答申を語る中から、権力の一貫した姿勢を明らかにしていく。自らを問いつめ、その中で、安穏として、サークル活動をしそういる自分をその状況の中で批判しなければならない。我々は弱い自分を常に批判し、弱い自分を問いつめる中から、状況に對峙する自己を発見していかなければならぬ。日々の活動に埋没していく血の目をめぐめながら、新たな自己の活動を展開させてくれた国家権力に対する深い感謝の意を表すねばならない。